

第3章 岩波・御宿エリア及び岩波駅周辺地区の現状

3-1 市全体の現状

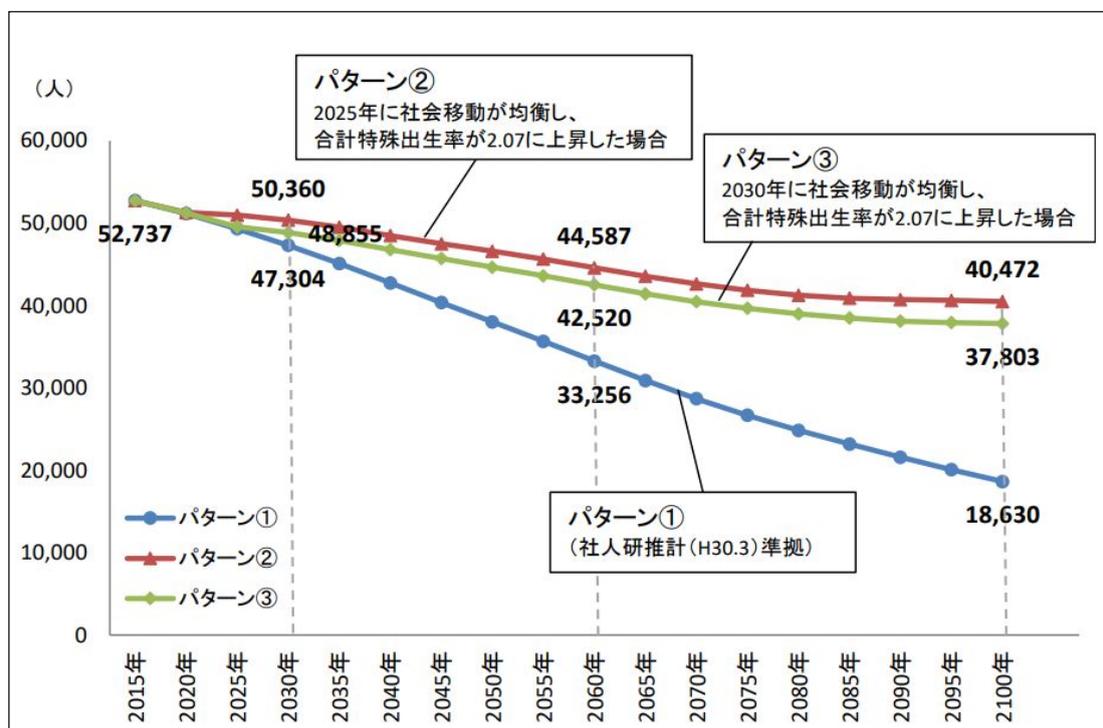
対象となる岩波・御宿エリア及び岩波駅周辺地区は、本市の北部地域の中心的な地域であるとともに、都市計画マスタープランにおいて地域生活拠点及び産業拠点に位置づけられている等、市北部の玄関口として中心的な役割を担う地域であることから、前段で市全体の動向を整理したうえで、岩波・御宿エリア及び岩波駅周辺地区の現状を後述します。

3-1-1 人口動向

(1) 将来人口の見通し

第5次裾野市総合計画において、将来人口について、現状の減少傾向が今後も継続する場合、2030年（令和12年）には、本市の人口は47,304人にまで減少することが推計されています。

また、人口減少に歯止めをかけ、人口の規模及び構造を安定させるためには、社会移動を均衡させ、合計特殊出生率が人口置換水準（2.07）に回復することが必要になります。



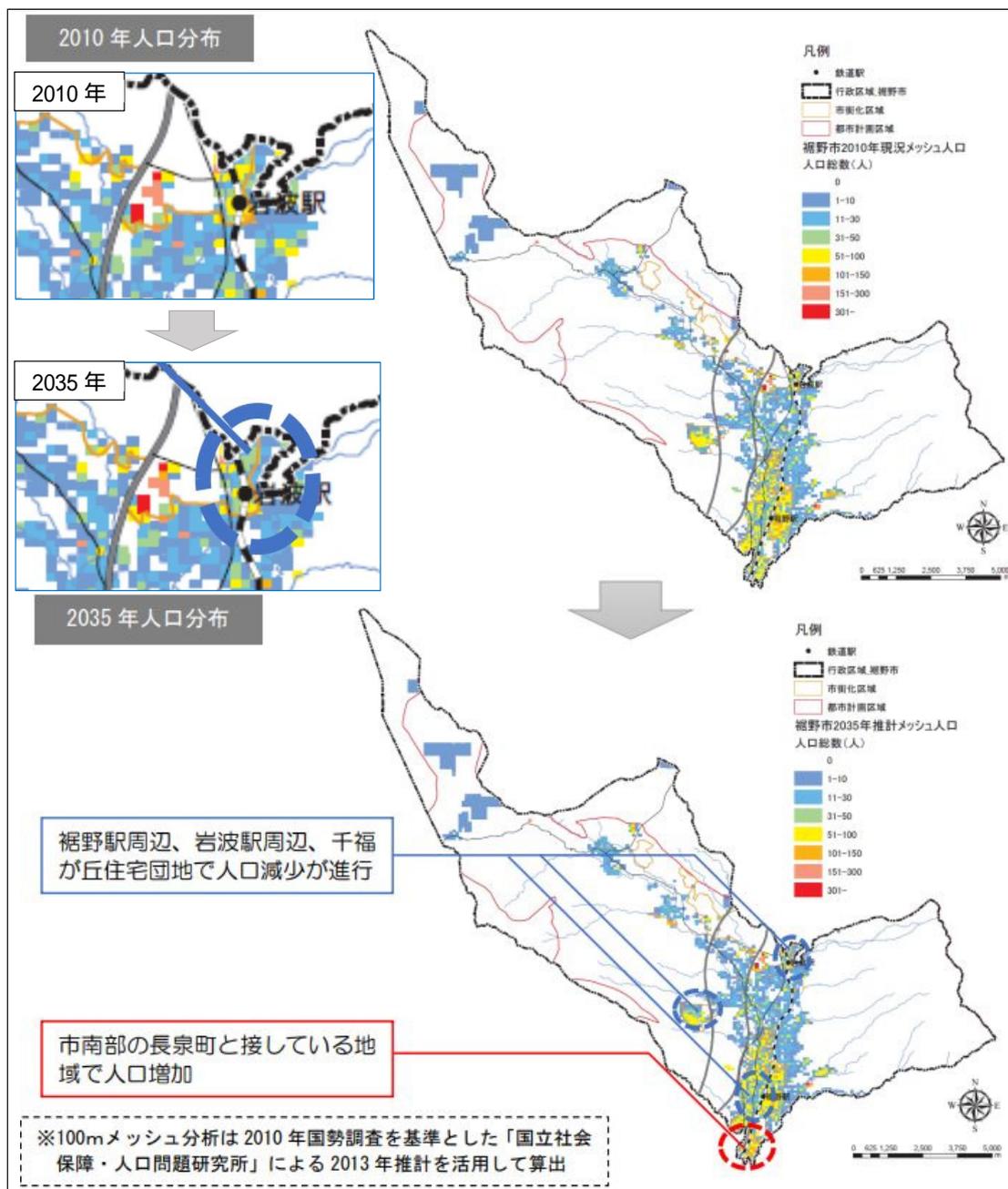
出典：第5次裾野市総合計画

図 裾野市の人口動向

(2) 将来の人口分布

2010年(平成22年)では、市南部の市街化区域、岩波駅周辺、千福が丘住宅団地を中心に100mメッシュ内人口51~100人程度で分布しており、市街化調整区域においても低密度に人口が分布しています。

2035年(令和17年)までに、裾野駅周辺、岩波駅周辺、千福が丘住宅団地で人口減少が進行し、一方で市南部の長泉町と接している地域で大幅に増加することが予想されます。また、呼子住宅団地周辺や市北部の市街化区域周辺においても微増することが予想されます。



出典：裾野市立地適正化計画（一部加筆）

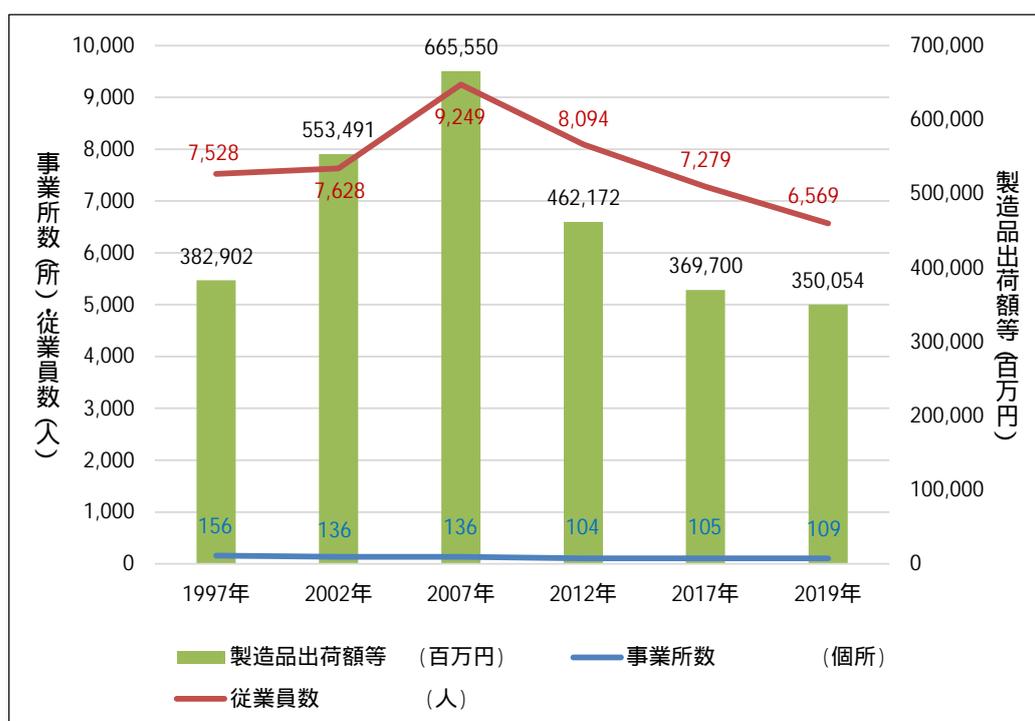
図 将来の人口分布（2010年（平成22年）から2035年（令和17年））

3-1-2 産業の動向

(1) 工業の動向

裾野市の2019年（令和元年）の事業所数及び従業員数は、109事業所、6,569人となっており、年次によって増減があるものの2007年（平成19年）をピークに減少しています。製造品出荷額等は、2019年（令和元年）で約3,501億円であり、2007年（平成19年）をピークに2017年（平成29年）にかけて大きく減少しましたが、それ以降はほぼ横ばいで推移しています。

2008年（平成20年）のリーマンショックを発端とする世界的な景気の後退等の影響により輸出関連産業を中心に大きな打撃を受け、雇用情勢の悪化や法人税収入の低下等を招き、市の経済にも大きな影響を及ぼしています。

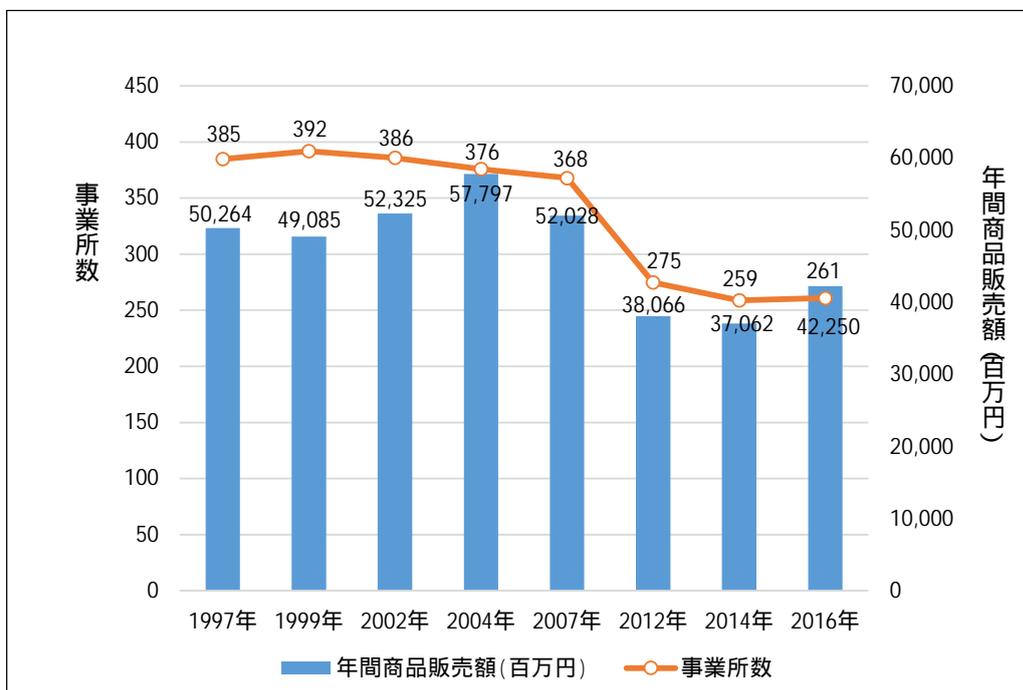


出典：工業統計調査、経済センサス活動調査

図 事業所数、従業員数、製造品出荷額等の推移

(2) 商業の動向

小売業の事業所数と年間商品販売額の推移をみると、事業所数は1999年（平成11年）以降減少傾向にあり、2016年（平成28年）では261事業所となっています。年間商品販売額は、2004年（平成16年）まで増加傾向にあったものの、2007年（平成19年）で減少に転じ、2016年（平成28年）には年間約423億円となっています。



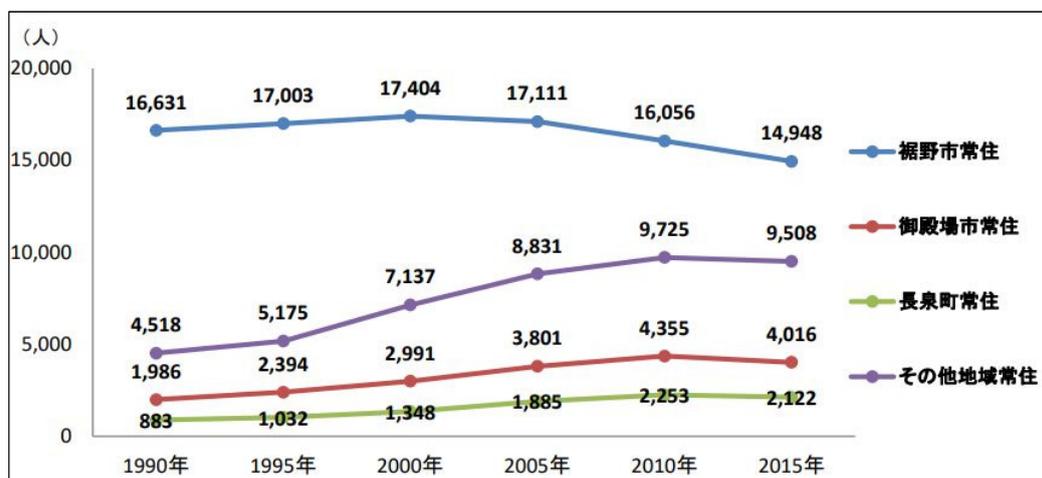
出典：商業統計調査、経済センサス活動調査

図 小売業の事業所数・年間商品販売額の推移

(3) 昼夜間人口

この20年の間に、市内就業者数は増加したものの、市内在住の就業者数は減少し、他の市町に居住し、本市で働く人が増加しました。市ではこの現状を受け、北部地域に所在する企業社宅の居住者等が持家取得時に市外へ転出してしまおう状況を改善するため、「職住近接・定住促進」への取組みを強化しましたが、抜本的な改善には至っていないのが現状です。

また、「近隣市町に住んで裾野市へ通う」という就業者が増加することは、自動車通勤を増加させ、慢性的な通勤渋滞を引き起こす原因ともなっています。



出典：第5次裾野市総合計画

図 常住地別市内就業者数の推移

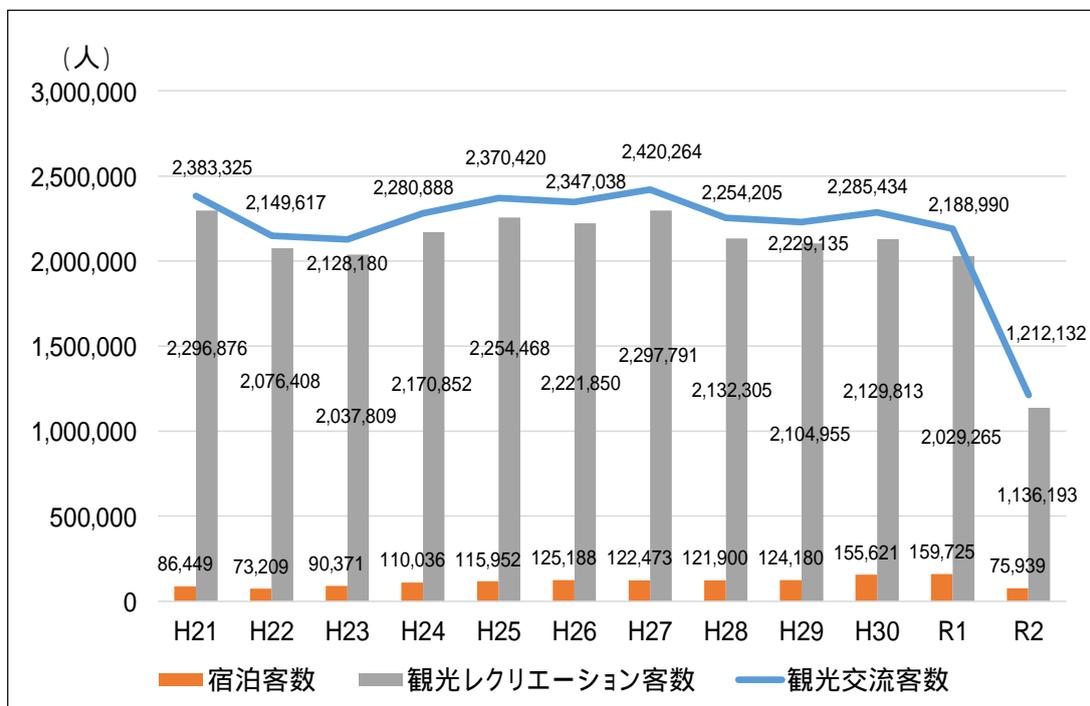


出典：裾野市北部地域まちづくり基本構想

図 昼夜間人口比率の推移

(4) 観光

市内には、知名度の高い観光施設が多くを訪来者を集めているものの、宿泊施設や来訪客向けの飲食・物販施設が少ない状況です。裾野市への観光交流客数は増加傾向にあり、世界遺産富士山の構成資産である須山浅間神社等の地域資源の活用により、今後さらなる増加が期待できます。2020年（令和2年）は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、観光交流客数、宿泊客数、観光レクリエーション客数が減少しています。今後、観光産業を地域活性化に結び付けるために、アフターコロナに向けた受け皿づくりが求められています。



出典：静岡県「静岡県観光交流の動向」

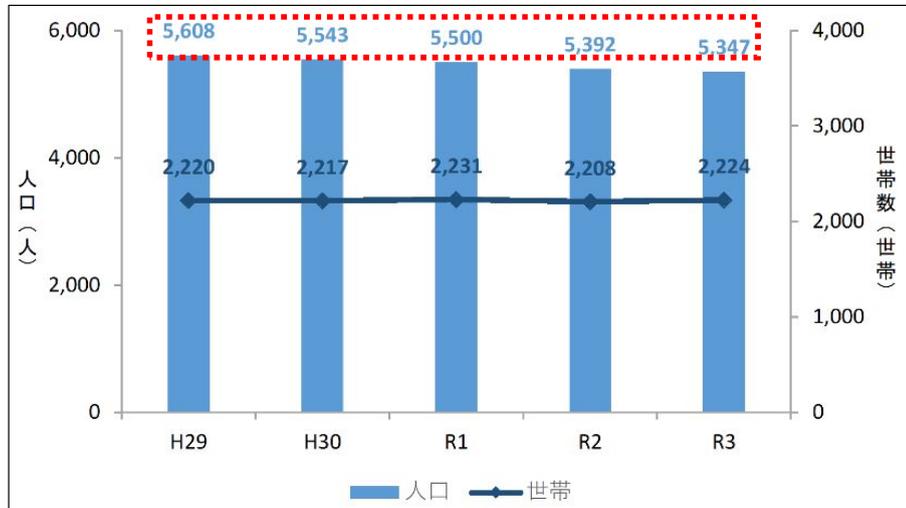
図 観光交流客数の推移

3-2 岩波・御宿エリア及び岩波駅周辺地区の現状

3-2-1 人口

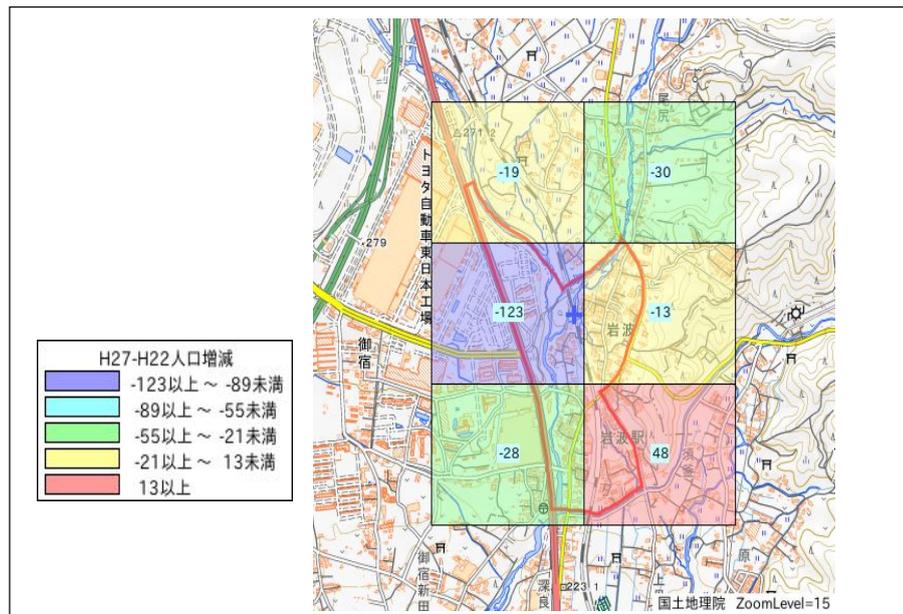
(1) 人口動向

岩波駅周辺地区および岩波駅周辺地区を含む深良地域の人口は、やや減少傾向にあります。



出典：裾野市の月別人口統計(各年4月1日現在)

図 人口・世帯数の推移【深良地域】



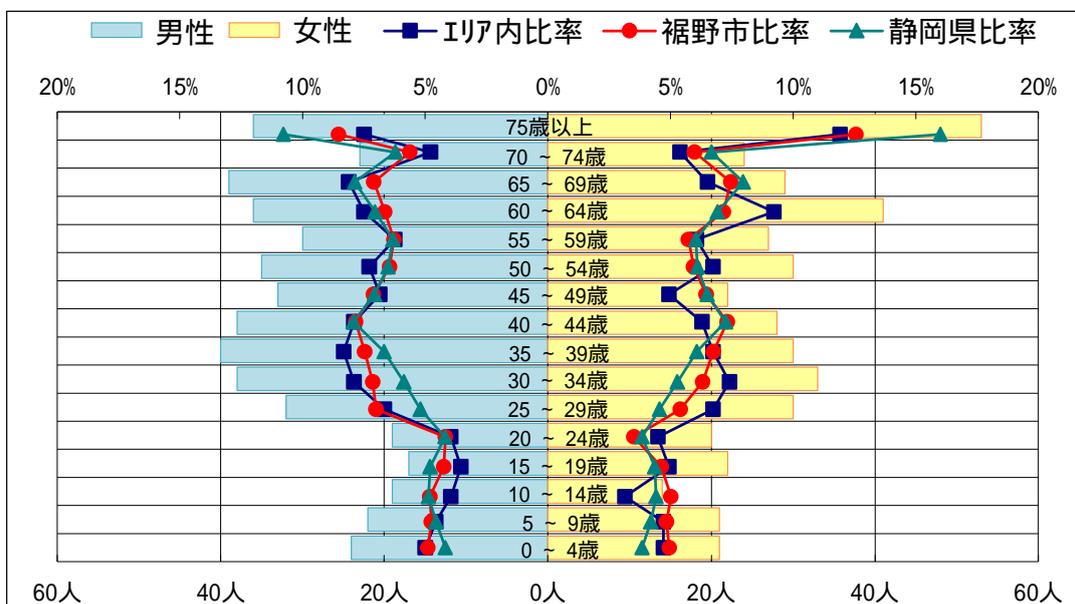
出典：e-Stat (政府統計の総合窓口)

図 人口増減【岩波駅周辺地区：2010年(平成22年)から2015年(平成27年)】

(2) 高齢化率

全市の高齢化率は2015年（平成27年）で23.5%、岩波駅周辺地区を含む深良地域は26.5%ですが、岩波駅周辺地区は22.0%と高齢化率が低い状況にあります。

また、静岡県や裾野市全体と比較して、20歳代後半～30歳代の若年層の割合が高い地区です。



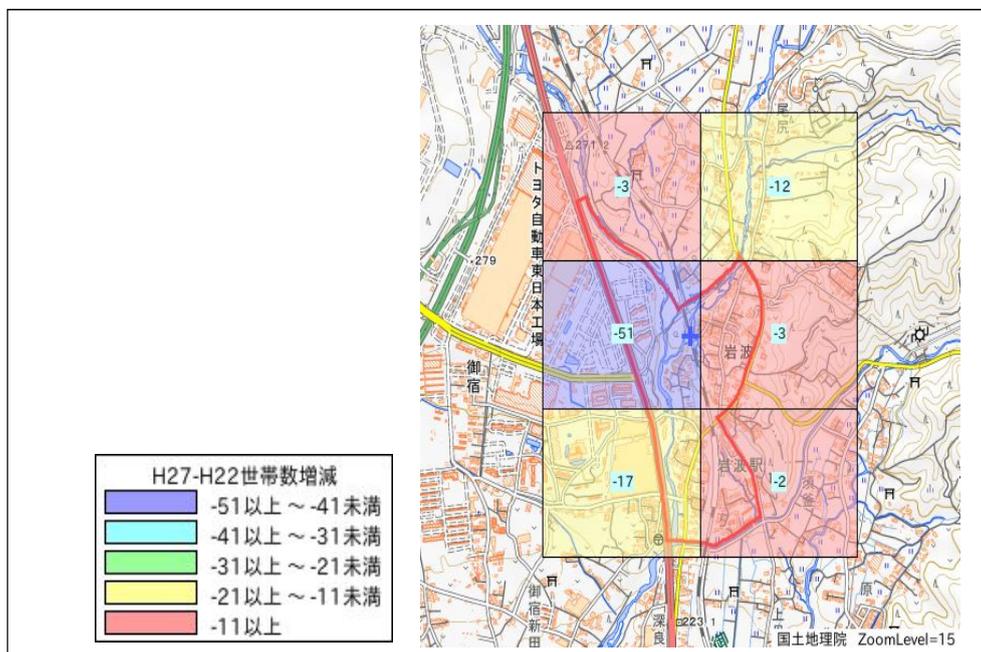
出典：平成27年国勢調査

図 年齢別人口構成比の比較（2015年（平成27年））

(3) 世帯増減

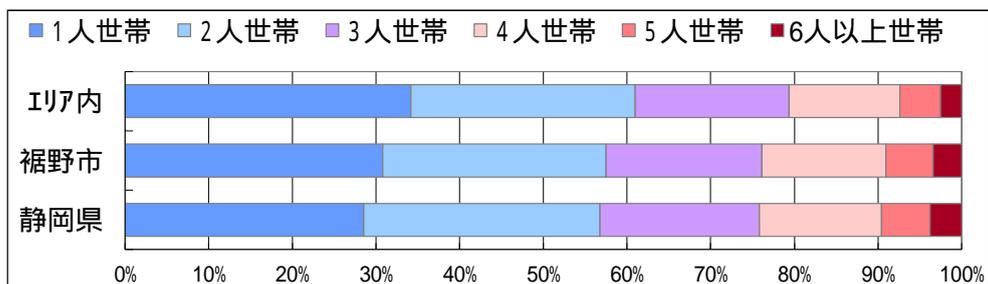
岩波駅周辺地区においては、世帯数が減少傾向にあり、静岡県や裾野市全体と比較して、世帯人員が少ないエリアです。

また、住宅については、静岡県や裾野市全体と比較して、共同住宅世帯の割合が多い状況にあります。



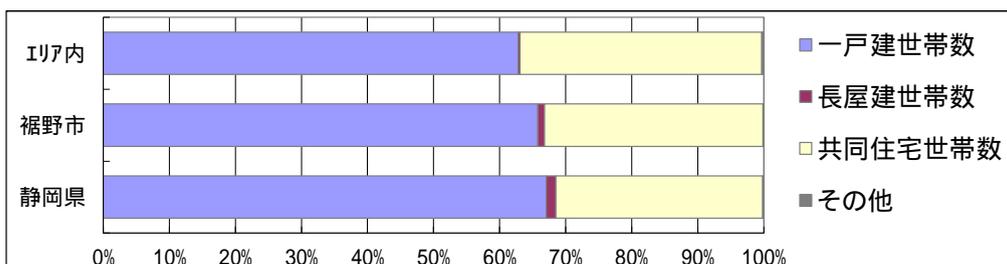
出典：e-Stat（政府統計の総合窓口）

図 世帯数増減【岩波駅周辺地区：2010年（平成22年）から2015年（平成27年）】



出典：平成27年国勢調査

図 人員別世帯構成比 (2015年 (平成27年))



出典：平成27年国勢調査

図 住宅の建て方別世帯数 (2015年 (平成27年))

3-2-2 産業・雇用

(1) 産業構造の変遷

裾野市は、農林業中心の産業構造から大手企業の研究所や工場が立地する産業集積エリアに変貌し、地域経済をけん引する産業の集積が進みました。

また、2014年（平成26年）に静岡県「ふじのくにフロンティア推進区域」の指定を受け、東名裾野IC周辺に新たな企業が進出したほか、2020年（令和2年）には市内大手企業が「コネクティッド・シティ」プロジェクトを発表し、市に実証都市「ウーブン・シティ」を建設することが決まりました。

一方、裾野市の産業構造として、多くの中小企業に大手企業との直接的な生産・取引関係が少ない特徴が見受けられ、連鎖的な雇用創出に至っておらず、県外へ進学した学生のUターン就職にはつながっていないのが現状です。



<ふじのくにフロンティア推進区域への企業進出>



<ウーブン・シティ構想のイメージ>

表 岩波駅周辺地区の事業所数、従業者数

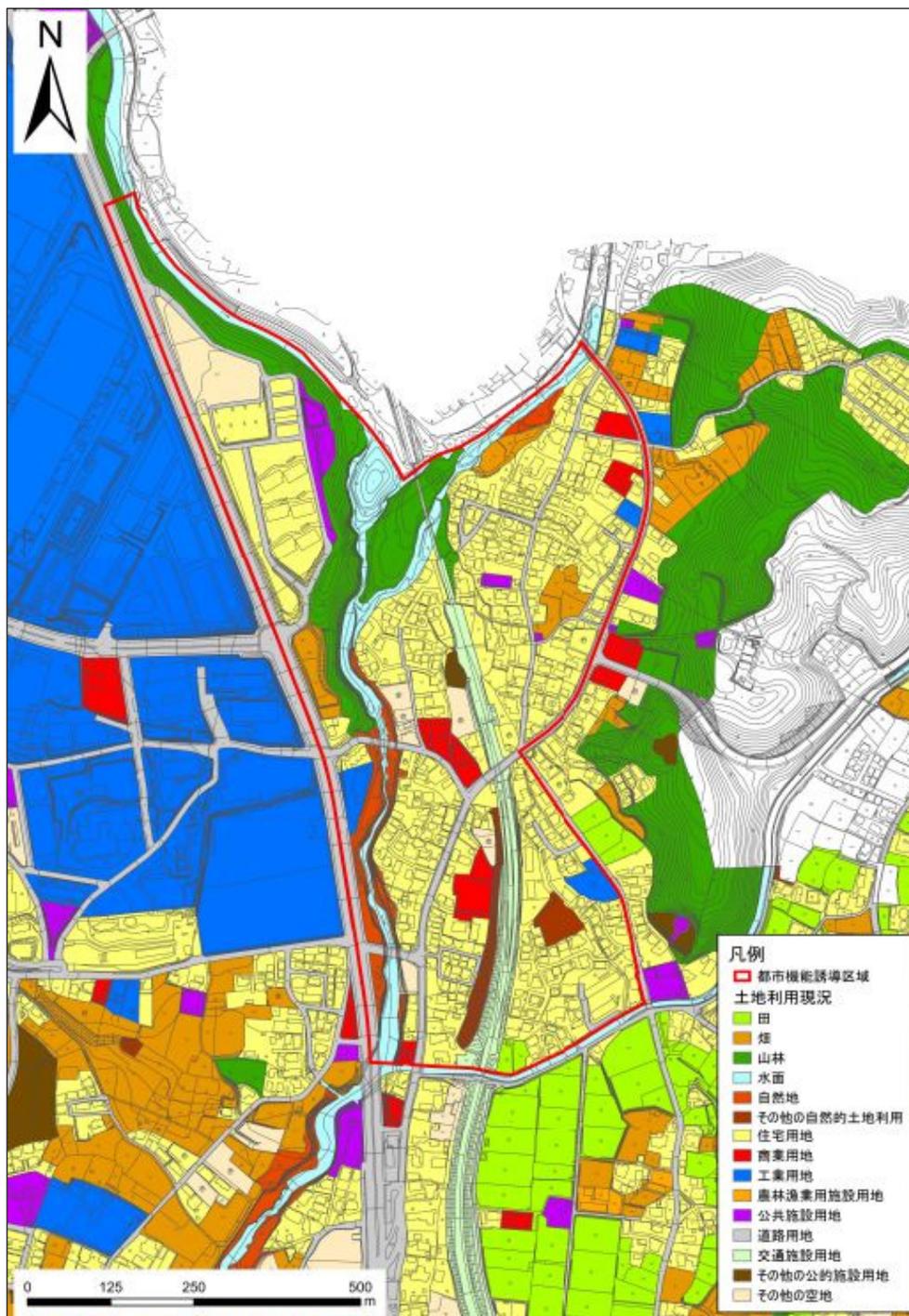
| | 事業所数 | | | | 従業者数 | | | |
|-------|------|------|-------|------|------|------|--------|------|
| | エリア内 | | 裾野市 | | エリア内 | | 裾野市 | |
| 第1次産業 | 0 | 0% | 15 | 1% | 0 | 0% | 191 | 1% |
| 第2次産業 | 4 | 13% | 440 | 24% | 82 | 21% | 8,647 | 32% |
| 第3次産業 | 28 | 88% | 1,406 | 76% | 303 | 79% | 18,318 | 67% |
| 計 | 32 | 100% | 1,861 | 100% | 385 | 100% | 27,156 | 100% |

出典：平成28年経済センサス - 活動調査

3-2-3 土地利用・建物利用の状況

(1) 岩波駅周辺地区の土地利用現況

岩波駅周辺地区の土地利用は主に住宅用地であり、一部山林や河川等の自然環境を有しています。また、地区の中央は南北に縦断する公共施設用地（鉄道）として利用されています。

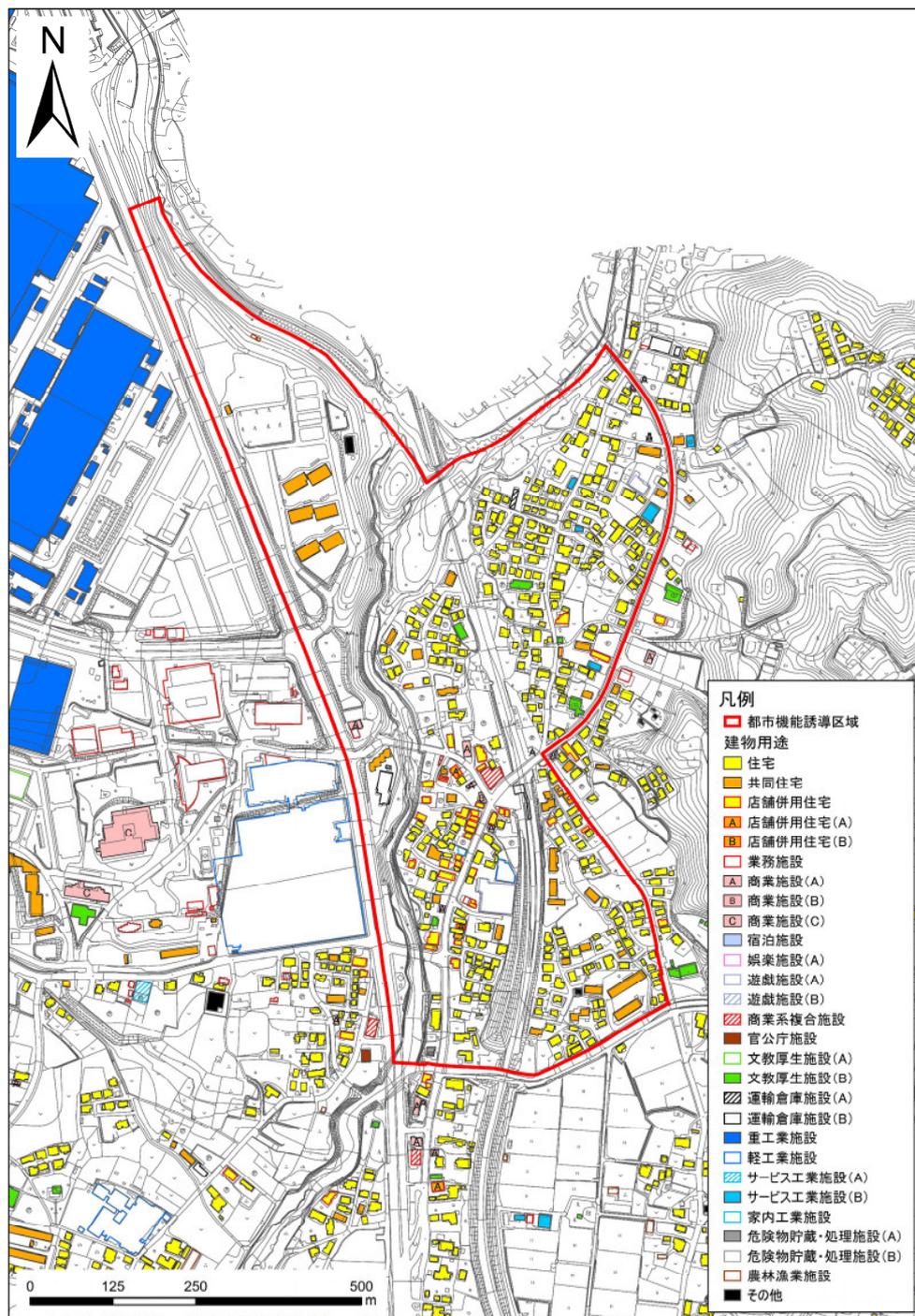


資料：都市計画基礎調査（平成28年）

図 土地利用現況図

(2) 岩波駅周辺地区の建物利用状況

岩波駅周辺地区の建物は、主に住宅として利用されています。



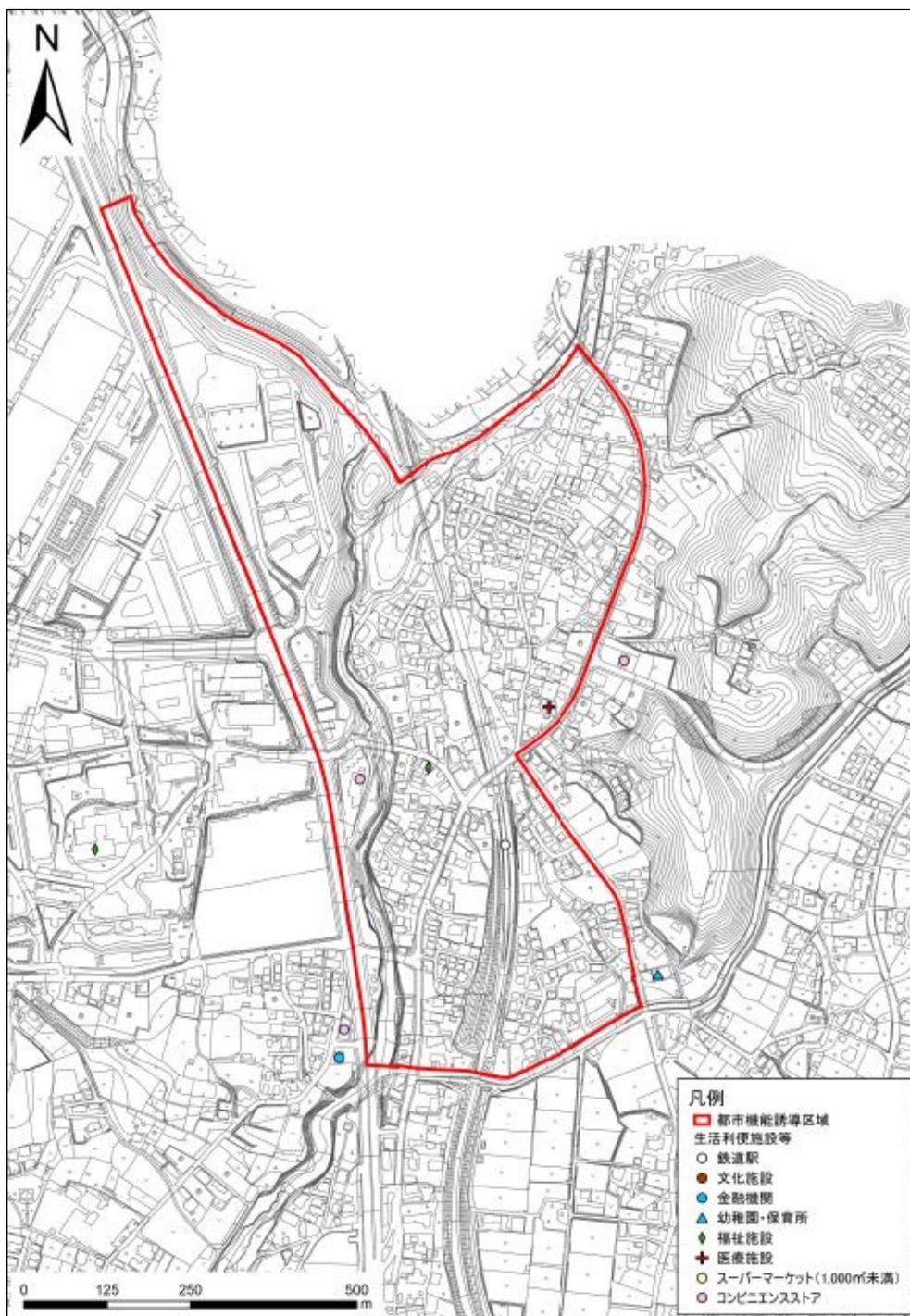
資料：都市計画基礎調査（平成 28 年）

図 建物利用現況図

3-2-4 周辺施設の状況

(1) 生活利便施設

岩波駅周辺地区には、小規模の飲食店等が立地しているものの、大規模商業施設や文化施設や金融機関等は立地していない状況です。



資料：裾野市立地適正化計画

図 生活利便施設等状況図

(2) その他の地域資源

地区の西側に（一）黄瀬川等の自然資源を有するほか、南側に岩波駅や地域の人々が産業のコミュニティ拠点としているいわなみキッチンが位置しています。

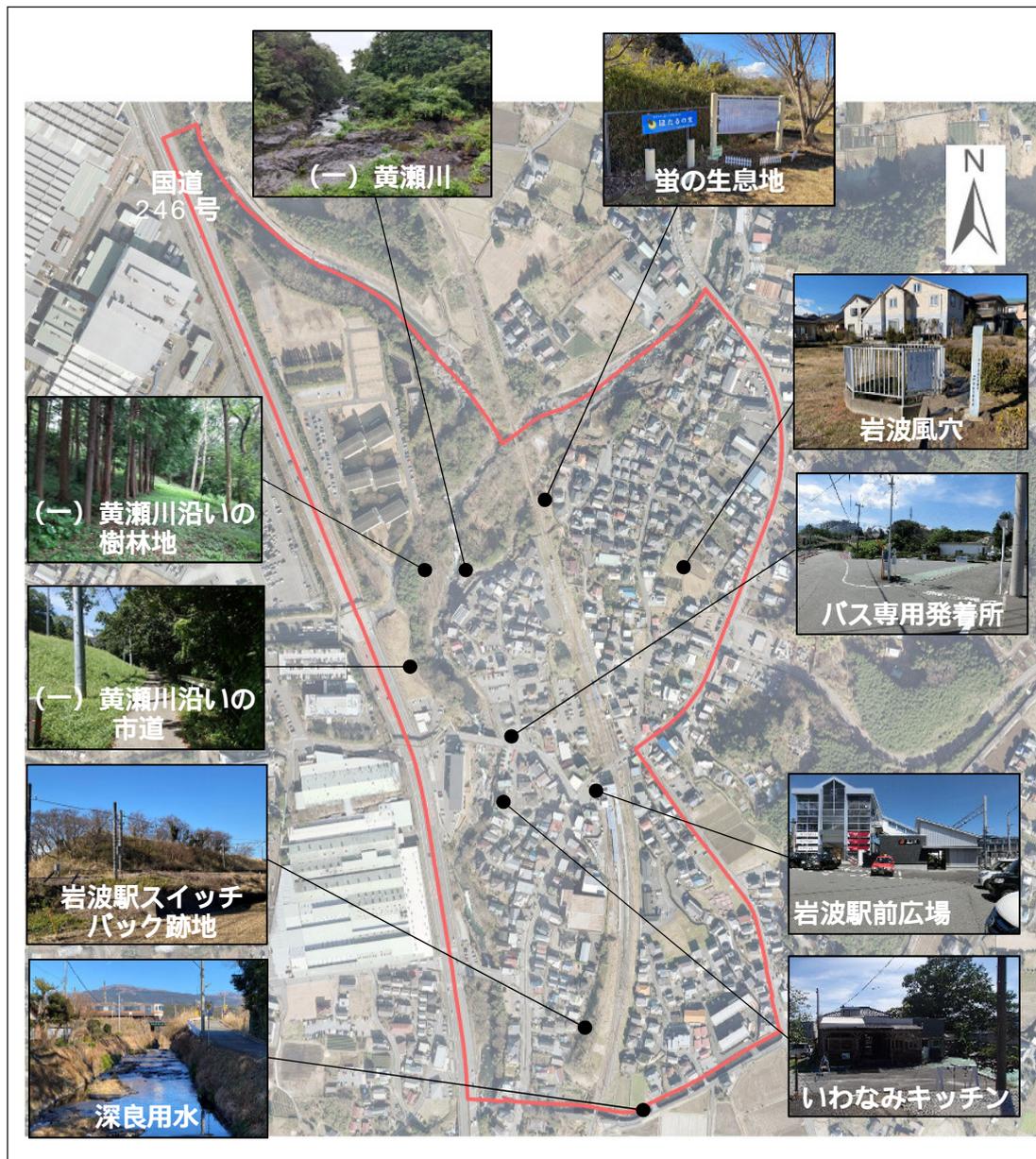
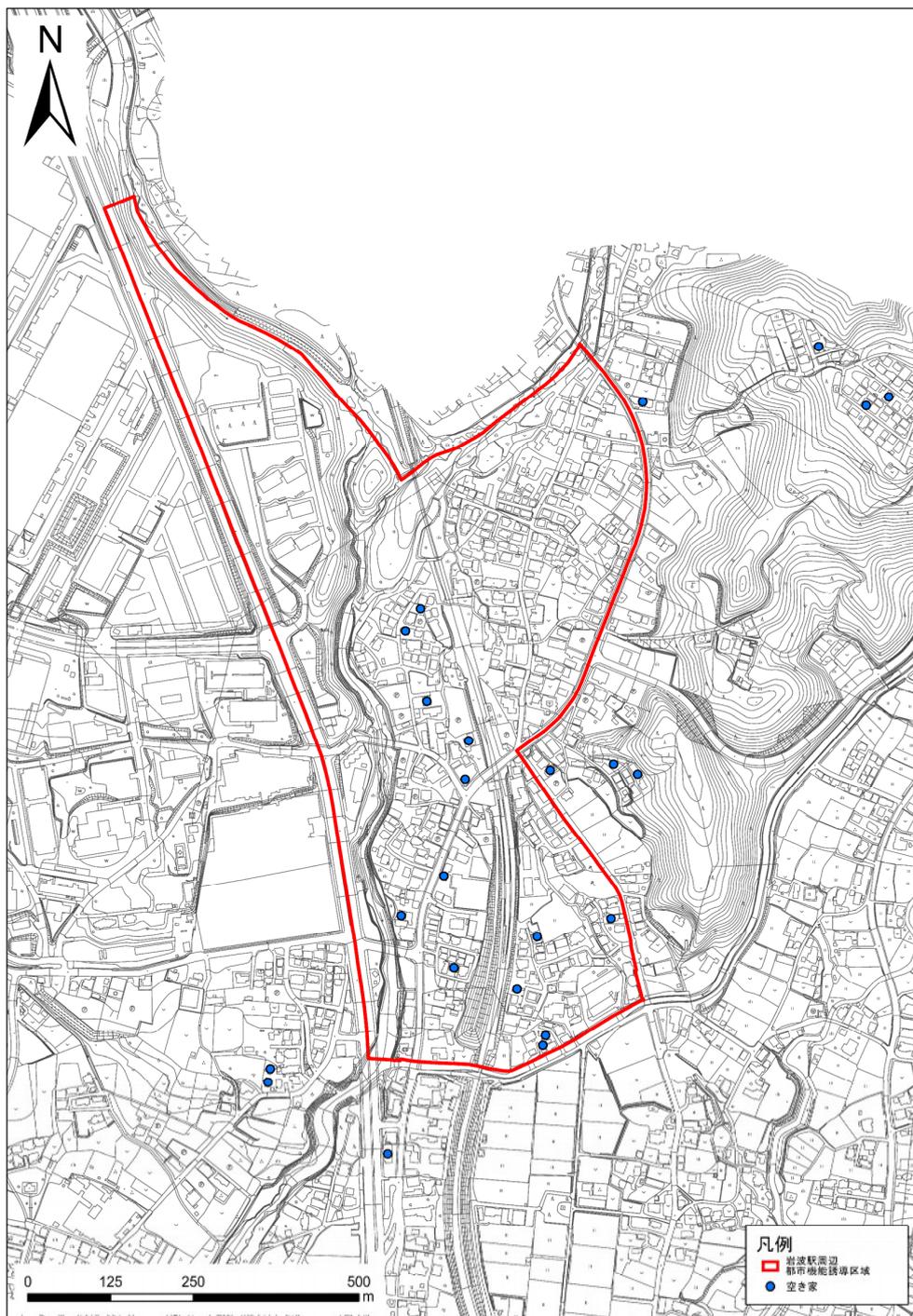


図 地域資源の分布図

(3) 空き家

JR 御殿場線沿線に住宅地を中心とした建物が分布しているなか、一部について空き家の点在が見られます。



資料：裾野市空き家データベース

図 空き家状況図

3-2-5 公共交通等

(1) 鉄道

岩波駅の乗車人員をみると、72～78万人/年程度で推移しており、近年は横ばいから減少傾向にあります。

岩波駅周辺には多くの企業・工業が立地し、朝夕通勤時間帯での混雑解消が課題となっていました。地上新駅舎や新上りホームが整備され、駅構内での混雑は緩和されました。



出典：裾野市統計書

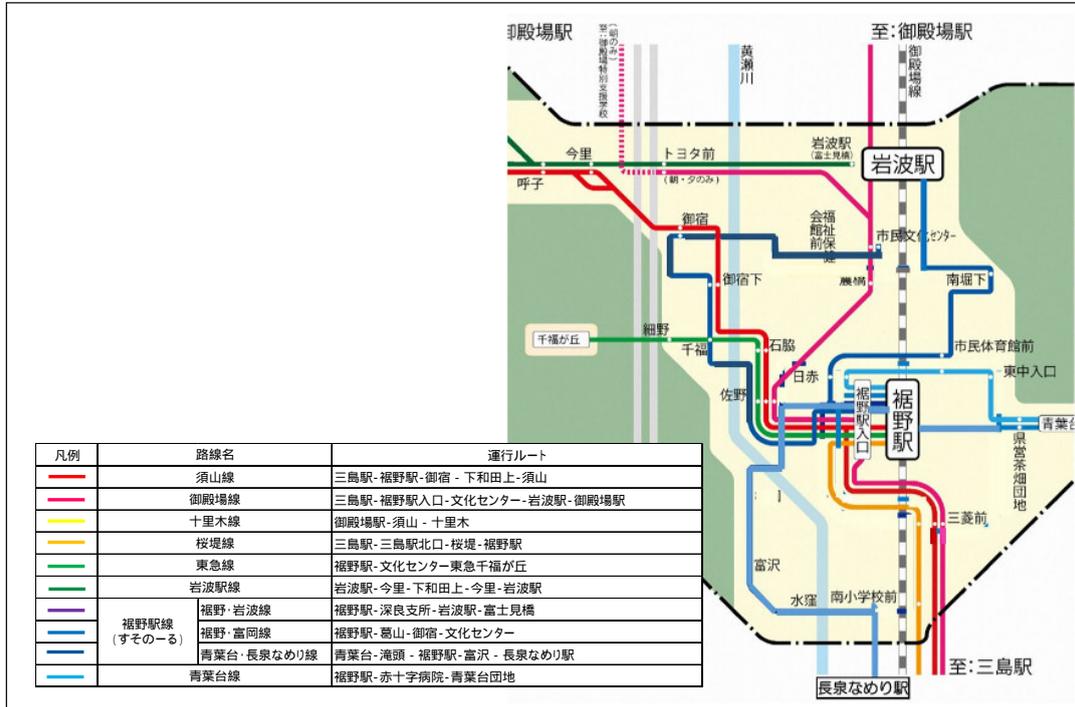
図 岩波駅、裾野駅の乗車数の推移



写真 整備後の岩波駅

(2) 路線バス

岩波駅へは、三島駅～裾野駅～岩波駅～御殿場駅を連絡する御殿場線が乗り入れていますが、利用者数の減少による運賃収入の減少及び、バス運転手の不足等の要因から、路線バス事業者より減便等の申し出があり、2018年（平成30年）の4月に運行サービスが見直されました。なお、当路線は国庫補助及び市補助路線となっています。



出典：裾野市資料

図 公共交通ネットワーク

表 路線バスの利用者数の推移

| 系統名 | 運行系統 | 運行主体 | 年間利用者数（人） | | |
|------|--------------------|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | | 2019年 （令和元年） | 2020年 （令和2年） | 2021年 （令和3年） |
| 御殿場線 | 御殿場駅～裾野駅 ～三島駅入口 | 富士急 モビリティ | 59,455 | 43,765 | 43,539 |

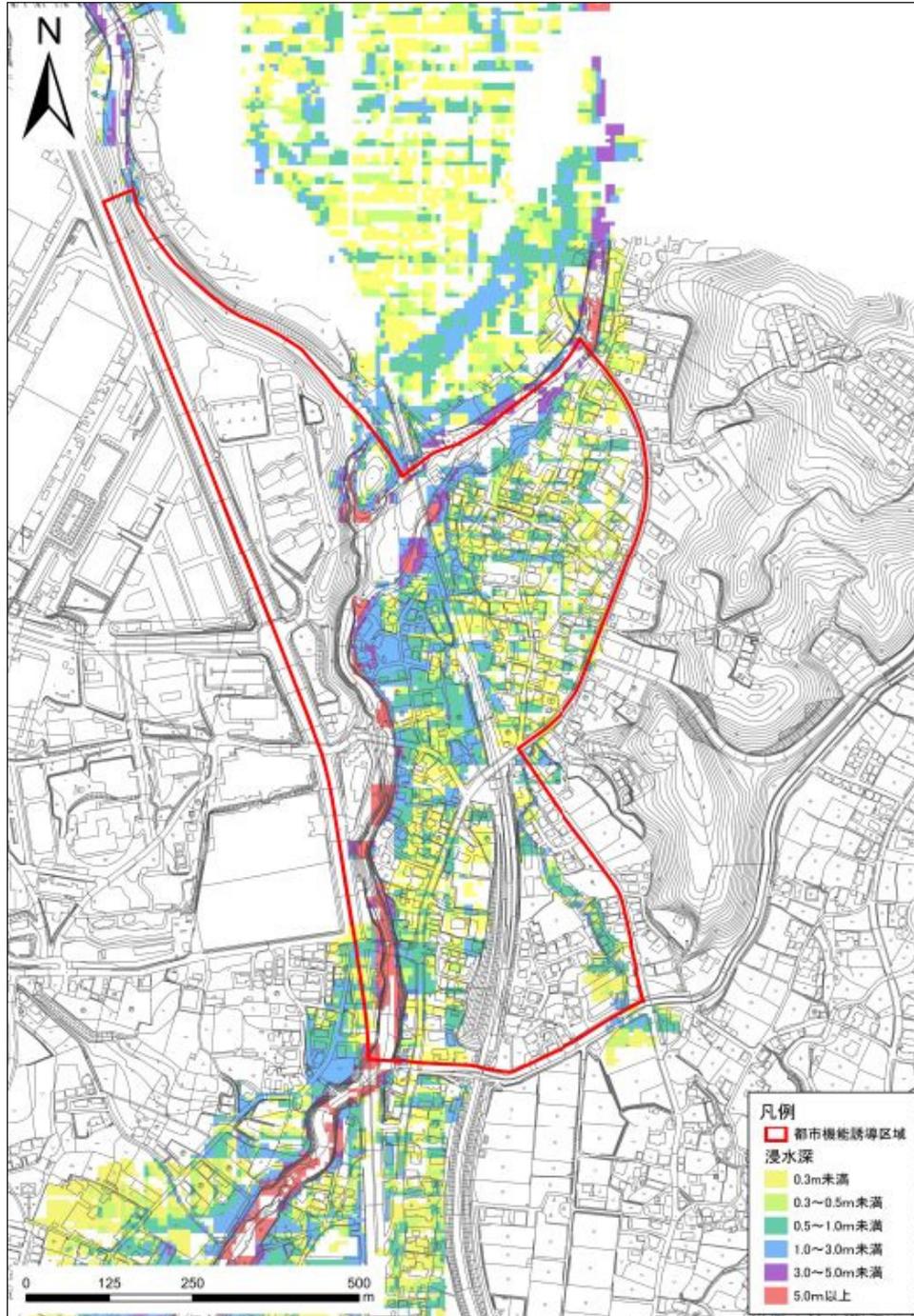
出典：裾野市資料

3-2-6 災害ハザード

(1) 浸水想定区域

市内を流れる狩野川水系の（一）黄瀬川及び（一）大場川沿いにあるのは、降雨による浸水想定区域に指定されています。

岩波駅周辺地区においても、（一）黄瀬川沿いにおいて広く浸水が想定されています。

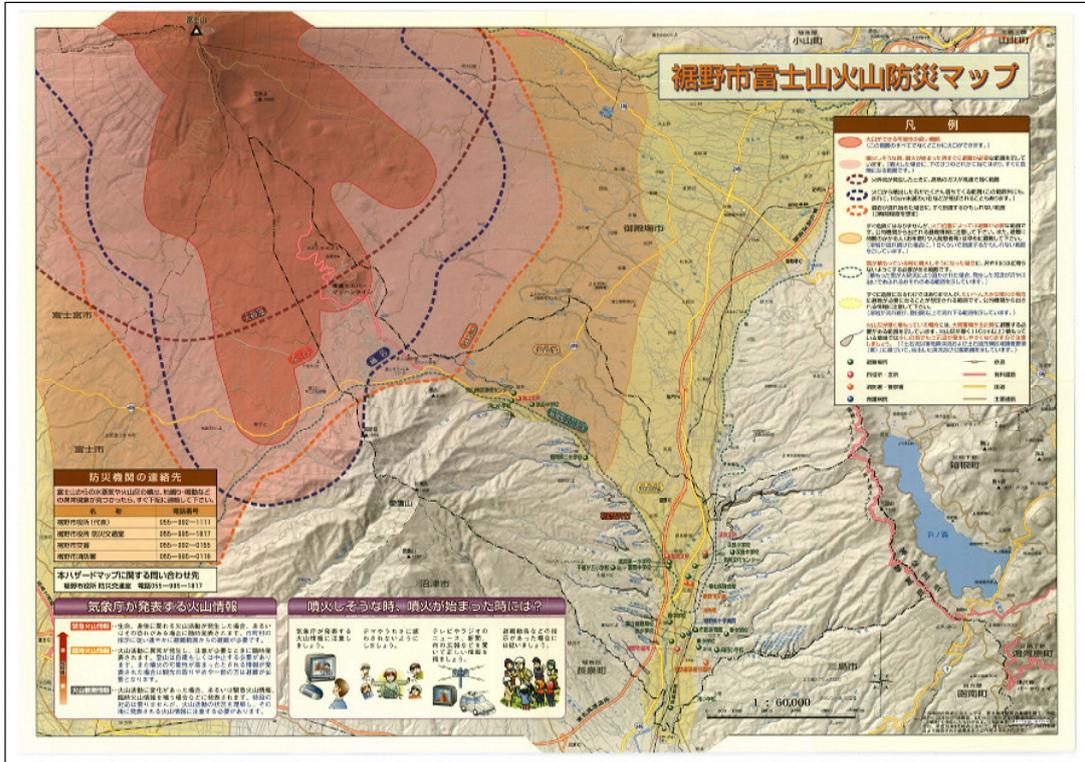


出典：裾野市防災ハザードマップ（深良地区）

図 浸水想定区域図

(2) 火山

静岡県では、将来大規模な地震が発生する恐れが指摘されており、東海地震・神奈川県西部地震・元禄型関東地震の発生時には、裾野市において震度6弱～7の揺れが起こるものと予想されています。また、富士山噴火時には、火砕流や溶岩流、雪泥流、降灰による被害が発生することが予想されています。

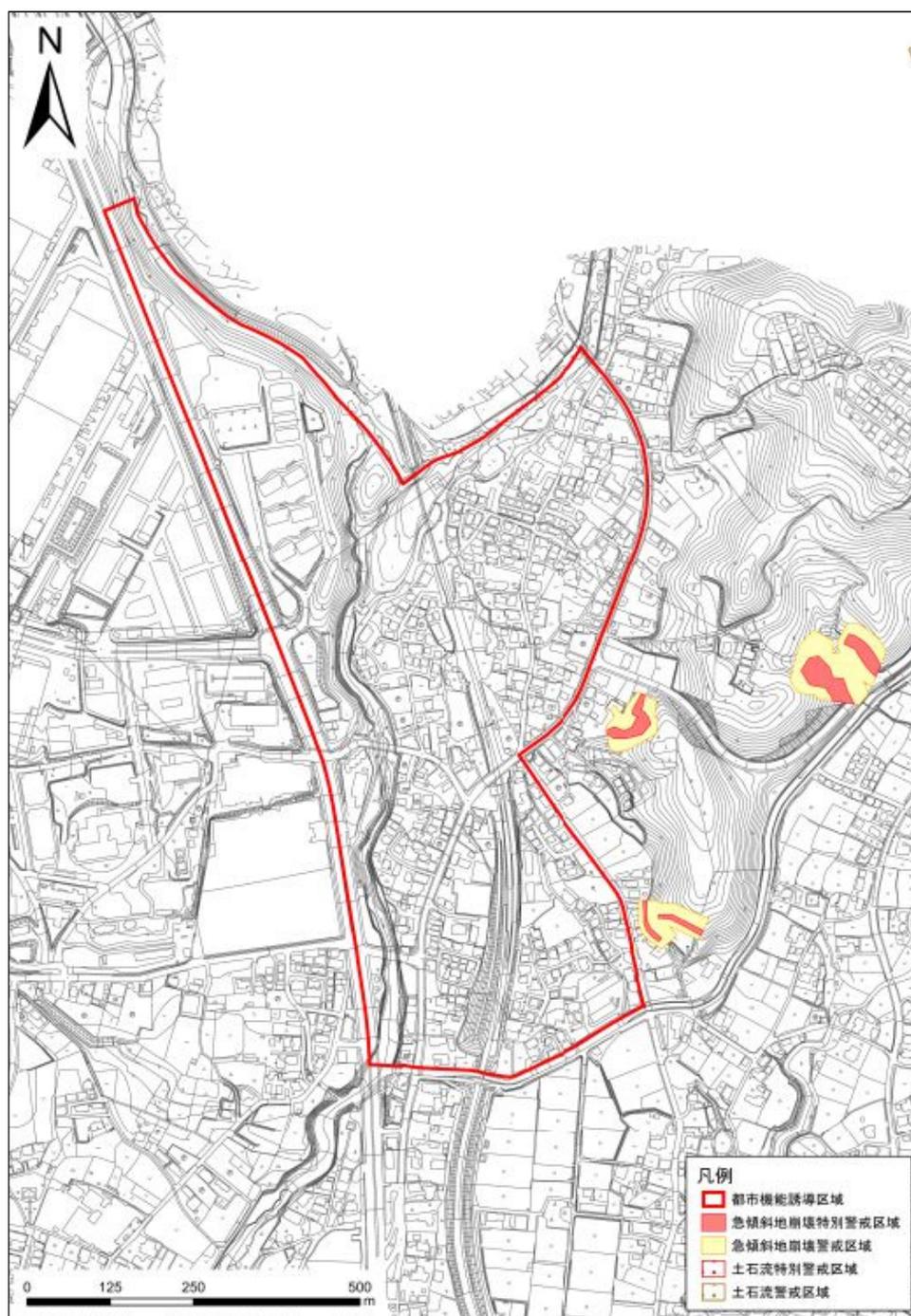


出典：裾野市危機管理課ハザードマップ

図 裾野市富士山火山防災マップ

(3) 土砂災害警戒区域

岩波駅周辺地区においては、土砂災害警戒区域は設定されていません。



出典：裾野市防災ハザードマップ（深良地区）

図 土砂災害警戒区域

3-2-7 用途地域

岩波駅周辺地区は、岩波駅西側の商店街が近隣商業地域に指定されており、その他は第1種住居地域が指定されています。岩波駅周辺地区の西側は、工業系用途地域が指定されています。

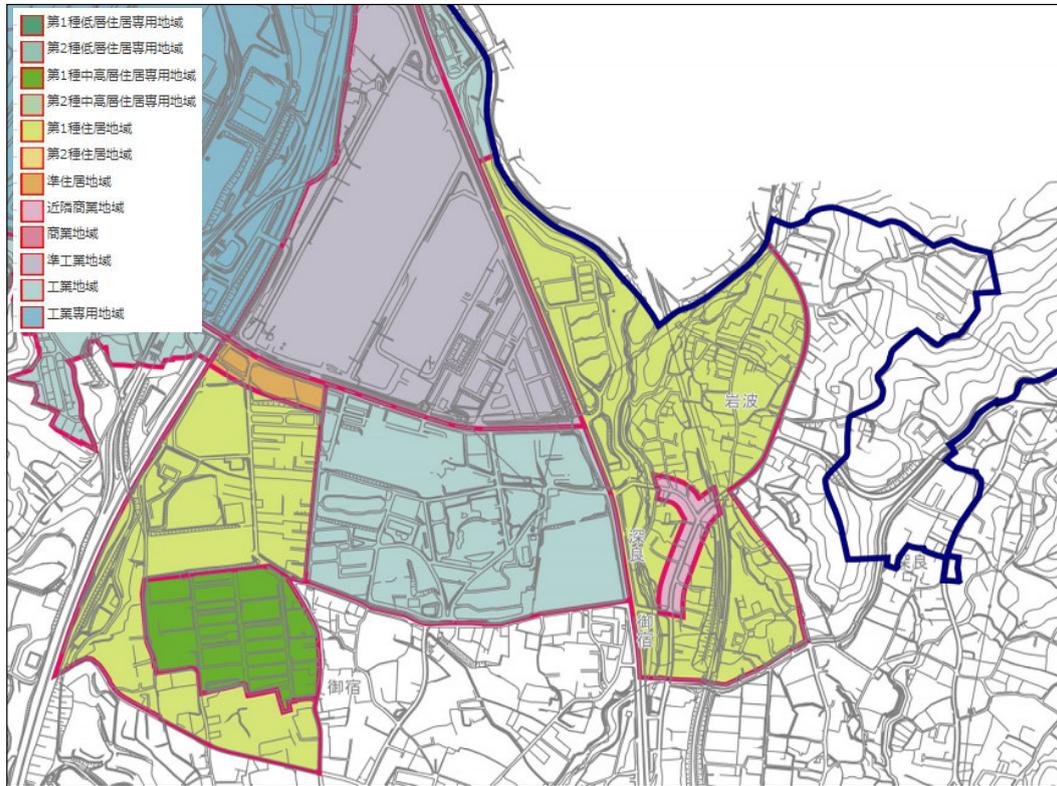


図 用途地域図

3-3 現状から捉えるべき課題

3-3-1 北部地域（岩波・御宿エリアを含む）における広域的に見た課題

岩波駅周辺地区に隣接し、新たなまちづくりを進めている『ウーブン・シティ』のインパクトを岩波・御宿エリアを含めた北部地域全体に広げていくことが求められています。先に整理した現状を踏まえ、広域的な観点での対象エリアにおける課題を整理します。

北部地域（岩波・御宿エリアを含む）等における課題

地域の交通拠点となる岩波駅利用者が安全かつ便利に移動できる交通環境の確保のため、**道路等の基盤整備**が必要です。

- 人口減少と高齢化の進展による地域活力の低下が懸念されており、既存集落の活力維持のためには周辺の自然環境や営農環境と調和した**良好な居住環境の維持や定住化の促進**が必要です。

地域の中心部に位置する岩波駅周辺地区は、地域生活の拠点となっており、北部地域全体への波及を見据え、**都市機能等の維持・充実**が必要です。

地域を代表する自然資源であり、世界かんがい施設遺産となった「**深良用水**」を活かした**まちづくり**が求められています。



図 北部地域における岩波駅周辺地区

3-3-2 岩波駅周辺地区の課題

岩波駅周辺地区に隣接する大手自動車製造工場の閉鎖及びウーブン・シティの建設という変化を念頭においたうえで、当地区の現状から捉えるべき地域の課題を以下に整理します。

岩波駅周辺地区の現状

- ・岩波駅前広場には駅前ロータリーや駐車場がなく、**車と人の動線が入り混じっている**状況が見受けられます。
- ・市道（富士見橋付近）は、岩波駅と周辺企業を結ぶ動線上にあり、朝夕は通勤・通学者で混雑し、**歩行者が車道を歩かざるを得ない**状況が見受けられます。
- ・国道 246 号に架かる 2 箇所の横断歩道橋は、岩波駅から周辺企業へ向かう通勤者等が多く利用しています。
- ・（一）黄瀬川や樹林地といった**豊かな自然環境**を有しています。
- ・（一）黄瀬川沿いには、**地域の人々や産業のコミュニティ拠点**を目的とした「いわなみキッチン」が立地しています。
- ・国道 246 号沿道（東側）には、**民間企業の社宅とともに樹林地や（一）黄瀬川、（一）久保川の豊かな景観を有する広大な緑地空間**が広がっています。
- ・岩波駅周辺には、**子育て支援や商業、金融、医療等都市生活におけるサービス施設が不足**しています。

岩波駅周辺地区の地域課題

岩波駅周辺の安全安心な交通環境の確保や交通結節点機能の改善・強化

岩波駅周辺地区には多くの企業・工業が立地しているなか、朝夕通勤時間帯での混雑解消が課題となり、地上新駅舎や新上りホームが整備され、バリアフリー化が進んでいます。一方で、駅前広場には、ロータリーや駐車場がなく、車と人の動線が入り混じっている現状があり、安全な歩車分離の交通環境づくりが必要となっています。

岩波駅周辺地区には大企業工場や研究所が多く立地しており、周辺市町や県外への結びつきが強いいため、広域アクセスに配慮しつつ、鉄道、高速バス、民間路線バス及びタクシー等様々な公共交通システムの機能を発揮できるよう乗換え利便性の確保が必要となっています。

- 「ウーブン・シティ」の整備に伴う新たな交通需要への対応や「ウーブン・シティ」と連携した次世代モビリティの導入を見据えた機能の充実等が求められます。

岩波駅周辺地区の地域課題

豊かな自然環境等の多様な魅力の利活用と発信

裾野市への観光交流客数は増加傾向にありますが、岩波駅周辺には宿泊施設や飲食・物販施設も少ない状況にあります。一方で、本地区は地区内を流れる（一）黄瀬川や樹林地といった豊かな自然環境を有しているほか、「オープン・シティ」の整備により、新たな魅力の創出も想定される等、新旧の資源の融合も視野に、多様な交流の促進に向けた資源の利活用や情報の発信が必要となっています。

都市生活におけるサービス施設の充足と定住の促進

オープン・シティプロジェクトと連動した整備に合わせ、地域に不足している子育て支援や商業、金融、医療等サービス施設の充実が必要となっているほか、それら整備に合わせ、余暇を楽しむための機能・空間、賑わいづくりに寄与する機能の誘導が求められます。なお、機能の検討にあたっては、防災機能を有する「安心の空間」や都市とつなぐ「憩いの空間」等、公共活動の場として価値あるコンテンツの充実も利用者に選ばれる傾向にあります。

今後も人口減少、生産年齢人口の減少が予測されているなか、「オープン・シティ」の整備に関連した新たな居住ニーズの高まりが想定されることも踏まえ、職住近接のまちづくりも視野に、居住機能を誘導する等、継続的な定住促進の取組が求められます。

オープン・シティプロジェクトや関連事業との連携したまちづくりの促進

オープン・シティプロジェクトを契機として、次世代型の都市づくりを取り入れつつ、地域課題の解決に繋げていくため、スピード感や多様なパートナーシップによる連携した取組が必要となっています。

観光産業を地域活性化に結び付けるための受け皿づくりと岩波駅周辺地区に関わる方と来訪者や「オープン・シティ」への新たな居住者がシームレスに交流できる場所や機会の創出が求められます。

オープン・シティプロジェクトに関連するグローバルな企業や多様な民間企業をはじめ、意欲ある地元企業や市民が主役となった新たなまちづくりを進めていくため、市民や民間企業が活躍できる環境づくり（規制緩和、乱開発の抑制や誘導、ルールづくり、体制づくり、気運の醸成等）が必要となっています。

第4章 市民意見の反映

4-1 過去のアンケート調査結果

裾野市立地適正化計画（2019年（平成31年）3月）では、裾野市の現状として市民意向（市民アンケート調査）が示されています。市民アンケート調査は、日常的な生活行動、公共交通の利用状況やサービスに対する満足度、生活利便施設や公共交通の利用意向及び公共交通の維持・確保の意向等を把握する目的で実施されています。

また2021年（令和3年）度には市民意識調査を実施し、公共交通を積極的に利用する理由や岩波駅周辺地区の魅力や充実のために必要なもの等について調査しています。

4-1-1 利用交通手段

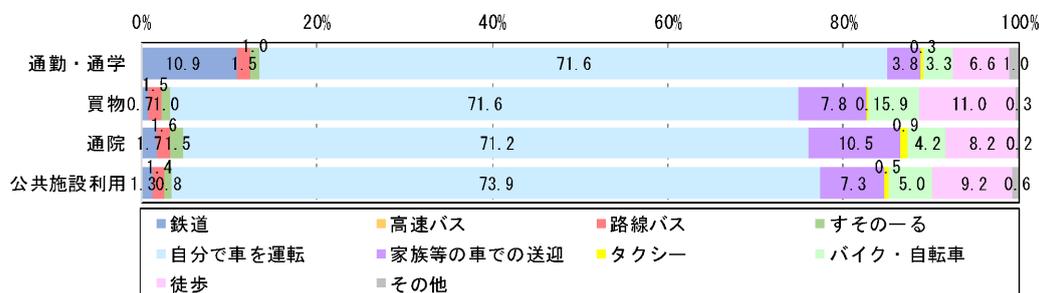
アンケート調査結果から、現状の主な交通手段は自分で車を運転している割合が高いですが、若年層（10歳代）や70歳以上の公共交通（鉄道や路線バス）の利用割合の高さから将来的な公共交通の利用ニーズが高まることが予想されます。

主な行き先は、通勤・通学では市内が、買物ではベルシティ裾野店が、通院ではその他の市内病院が、公共施設利用では裾野市役所が多くなっており、日常生活においても重要な施設といえます。

しかしながら、主に利用している交通手段は、各目的で「自分で車を運転」が7割以上と高く、買い物、通院、公共施設利用を目的とした交通手段は、公共交通の利用は5%未満と少ない状況です。

一方で、年齢別に見ると、各目的で若年層（10歳代）や70歳以上の高齢者で鉄道や路線バスの割合が高くなっており、高齢化が進む中で、今後は公共交通の利用ニーズが高まることが予想されます。

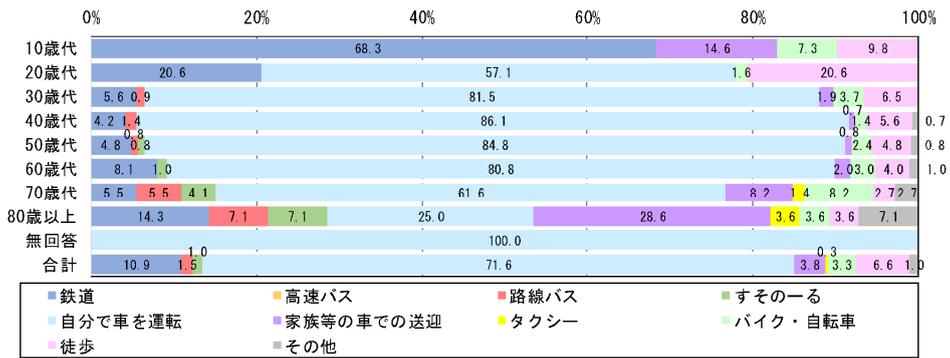
■ 外出時の主な利用交通手段



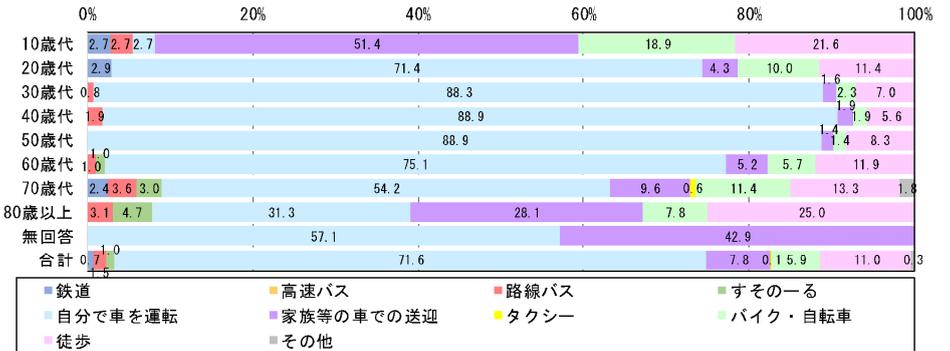
出典：裾野市立地適正化計画

図 アンケート調査結果（外出時の主な利用交通手段）

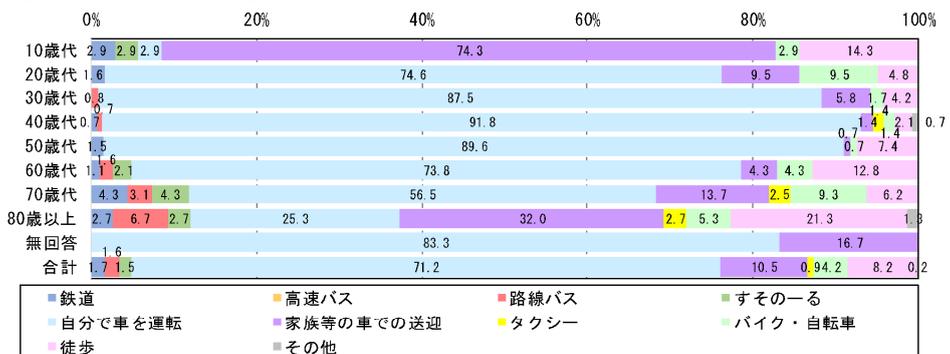
[年齢別通勤・通学の場合]



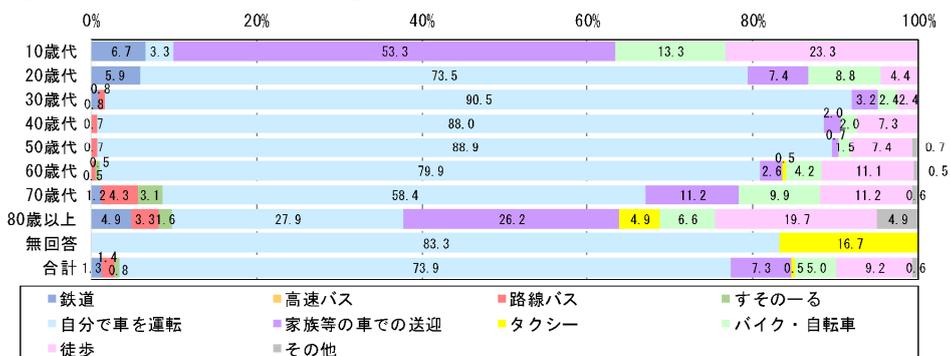
[年齢別買物の場合]



[年齢別通院の場合]



[年齢別公共施設利用の場合]



出典：裾野市立地適正化計画

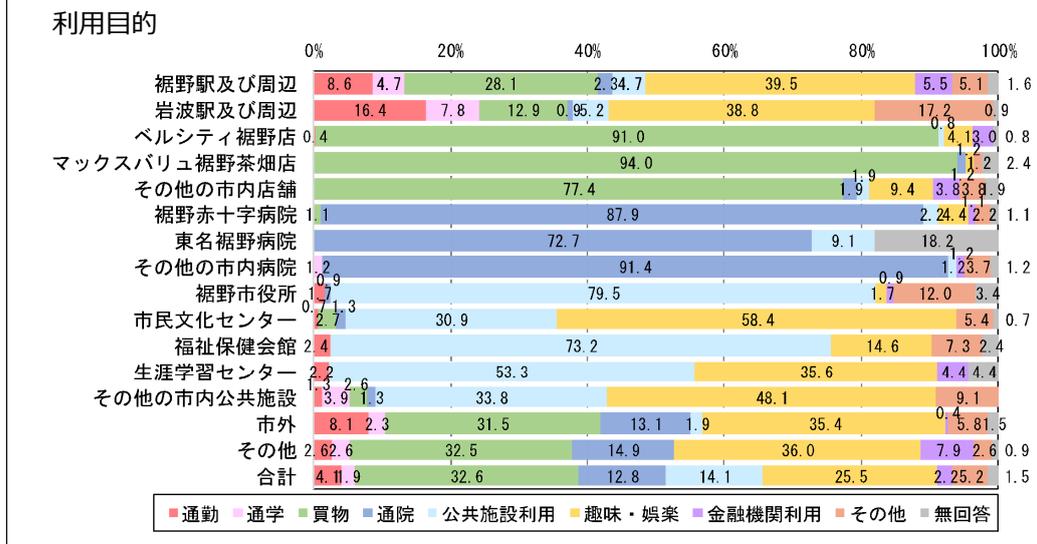
図 アンケート調査結果（外出時の主な利用交通手段）

4-1-2 公共交通の利用目的・利用理由

岩波駅周辺地区は、「趣味・娯楽」、「通勤」、「買物」を利用目的とし、公共交通を利用している割合が高いことが示されています。

バス等を利用して行きたい場所は、「ベルシティ裾野店」の266件、「市外」の260件、「裾野駅及び周辺」の256件の順で多くなっています。地区別に見ると、東地区と西地区は「裾野駅及び周辺」が、富岡地区と深良地区は「ベルシティ裾野店」が、須山地区は「市外」が最も多くなっており、市内においては裾野駅周辺の市街地までの公共交通の利用意向が高いことがうかがえます。

「裾野駅及び周辺」と「岩波駅及び周辺」に着目して利用目的をみると、「趣味・娯楽」、「買物」、「通勤」が多くなっており、利用目的に応じた駅周辺への機能誘導と公共交通の利用促進が求められます。



出典：裾野市立地適正化計画

図 アンケート調査結果（利用目的）

また、公共交通を積極的に利用する理由として、「自分で自家用車を運転できなくなった・しなくなった」が最も多くなっています。

(2) 公共交通機関の積極的利用

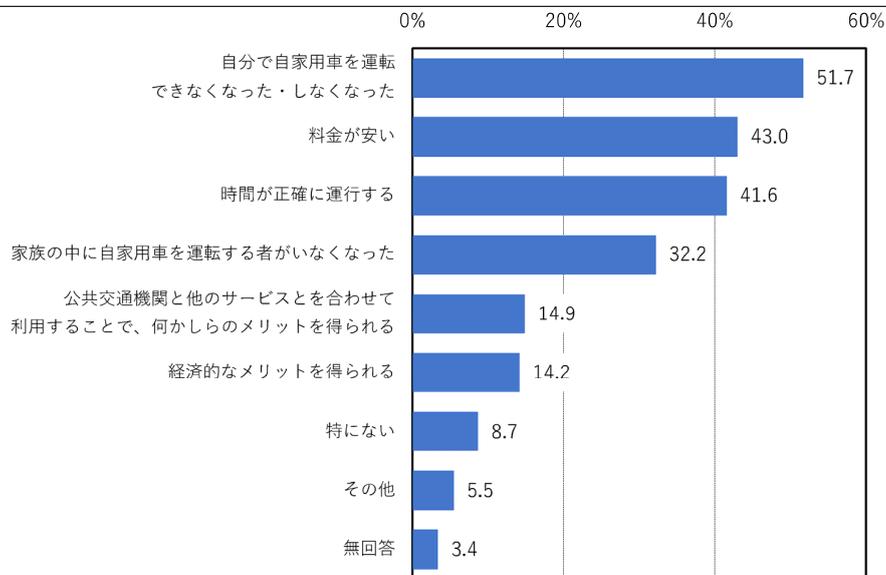
積極的に公共交通機関を利用する場合の理由については、「自分で自家用車を運転できなくなった・しなくなった」が51.7%と最も多く、次いで「料金が安い」が43.0%、「時間が正確に運行する」が41.6%となっています。

性別で見ると、男性は女性よりも「時間が正確に運行する」が4.1ポイント多く、女性は男性よりも「家族の中に自家用車を運転する者がいなくなった」が13.1ポイント、「自分で自家用車を運転できなくなった・しなくなった」が5.6ポイント多くなっています。

年代別で見ると、30代～70代では「自分で自家用車を運転できなくなった・しなくなった」が、20代と80代では「料金が安い」が最も多くなっています。

居住年数別で見ると、5年未満の「料金が安い」が、その他の居住年数に比べ特に多くなっています。

問34 「自家用車」の特徴の1つに、いつでも、どこへでも行くことができるという「便利さ」があります。「便利さ」という点において、「公共交通機関」は「自家用車」にかいません。それでも「公共交通機関」を積極的に利用するとしたら、どのような理由が考えられますか。
(当てはまるものすべてに)

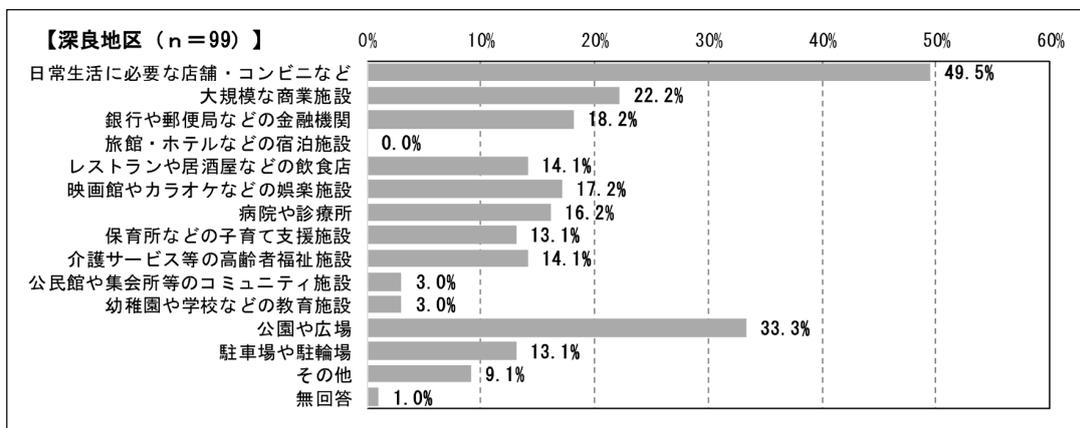


(n=565)

出典：令和3年度 裾野市市民意識調査報告書

4-1-3 生活するうえで必要な施設

岩波駅周辺地区を含む深良地区では、日常生活に必要な店舗・コンビニなどを求める割合が最も高く、次いで公園や広場が求められています。



出典：裾野市立地適正化計画

4-1-4 岩波駅周辺地区の魅力や充実のために必要なもの

岩波駅周辺地区の魅力として、「大企業の立地」や「優れた自然環境」があげられる一方で、「利便性の向上」、「まちの活気」、「安全対策」、「公共交通機関の利便性」等が求められています。

| 岩波駅周辺の魅力 | | | 岩波駅周辺に充実が必要なもの | | |
|----------|-----------------|------|----------------|--------------------|------|
| 順位 | 項目名 | 得点 | 順位 | 項目名 | 得点 |
| 1位 | 大企業が多数立地している | 21.1 | 1位 | 日常の買い物などの利便性 | 20.8 |
| 2位 | 優れた自然環境 | 19.2 | 2位 | まちの活気 | 19.4 |
| 3位 | 災害の危険性が少ない | 11.0 | 3位 | 歩行者や自転車の安全確保のための対策 | 12.0 |
| 4位 | 公共交通機関の利便性 | 10.5 | 4位 | バスなどの公共交通機関の利便性 | 11.4 |
| 5位 | 徒歩や自転車での行動のしやすさ | 4.2 | 5位 | 病院などの医療機関の充実 | 11.2 |
| 6位 | 駅や街並み | 4.0 | 6位 | 子供の遊び場・公園の充実など | 6.8 |
| 7位 | 日常の買い物などの利便性 | 3.5 | 7位 | 風紀・治安 | 3.0 |
| | | | 8位 | 福祉施設の充実 | 1.8 |

出典：令和3年度 裾野市市民意識調査報告書

4-1-5 まちづくりに求める要素

以上のアンケート調査結果から市民がまちづくりに求める要素として、岩波駅周辺地区は「公共交通の強化」、「生活機能の充実」、「コミュニティの維持」等が挙げられます。

4-2 岩波駅周辺地区まちづくりワークショップ

岩波駅周辺地区の整備について、具体的なまちづくりの方針としてまとめることを目的として、地域住民や周辺企業の方々とは意見交換を行いながら岩波駅周辺地区の将来を考えるワークショップを開催しました。

表 岩波駅周辺地区まちづくりワークショップの概要

| 回 | 日程 | 主要テーマ |
|-----|--|---|
| 第1回 | 開催日時/令和3年6月27日(日) 9時30分～11時30分 参加者/40人 開催場所/矢崎総業 Y-CITY ワールド ヘッドクォーターズ | ・岩波駅周辺地区のまちづくりを考えよう 『地域の良いところ、気になるところ』 |
| 第2回 | 開催日時/令和3年7月11日(日) 9時30分～11時30分 参加者/35人 開催場所/矢崎総業 Y-CITY ワールド ヘッドクォーターズ | ・まちの課題について考えよう 『岩波のまちを歩いて感じたこと』 |
| 第3回 | 開催日時/令和3年8月1日(日) 9時30分～11時30分 参加者/33人 開催場所/矢崎総業 Y-CITY ワールド ヘッドクォーターズ | ・まちの魅力を話し合い将来像を共有 『まちづくりのイメージを見える化』 |
| 第4回 | 開催日時/令和3年10月3日(日) 10時～12時 参加者/36人 開催場所/裾野市市民文化センター 第34、35、36会議室 | ・ゾーニングの共有 『大切にしたいこと実現したいことの共有』 |
| 第5回 | 開催日時/令和3年11月7日(日) 9時30分～11時30分 参加者/36人 開催場所/裾野市役所4階401会議室 | ・どのような街を目指すか 『賑わいのある岩波のまちを考える』 |
| 第6回 | 開催日時/令和3年12月12日(日) 9時30分～11時30分 参加者/35人 開催場所/裾野市役所4階401会議室 | ・実現可能な計画への落とし込み 『自分たちができること、自分たちが活かせるまち』 |



ワークショップの様子



まち歩きの様子

4-3 ワークショップでの市民意見

4-3-1 岩波駅周辺地区の現状と将来のまちづくりに向けて

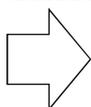
第1回の岩波駅周辺地区まちづくりワークショップでは、岩波駅周辺地区の「良いところ、気になるところ」について9つのグループに分かれて意見交換を行いました。

良いところ

- ・(一) 黄瀬川が近接する
- ・富士山、(一) 黄瀬川の景色
- ・岩が見ごたえある
- ・田園風景が良い
- ・ホテルが飛んでいる
- ・川のせせらぎ音
- ・歴史的
(薬師堂、不動尊、駒形八幡神社)
- ・ボウリング場
- ・いわなみキッチン 等

気になるところ

- ・歩道が狭い
- ・駅前が混雑している
- ・車の乗降場が狭い
- ・高齢化
- ・土地に高低差がある
- ・踏切の渋滞
- ・空き店舗
- ・商店が少ない
- ・昼に人がいない 等



岩波駅周辺地区の**良いところ、気になるところを確認**することで、**現状を知ることができる取組**となりました。

第2回の岩波駅周辺地区まちづくりワークショップでは、第1回で話し合った内容を実際に目で見て確認することを目的として、まち歩きを実施しました。その後、良いところを伸ばしたり、気になるところを改善するためのアイデアについて、意見を出し合いました。

景観に関するアイデア

- ・(一) 黄瀬川沿いに景観を楽しむことができる遊歩道があるとよい。
- ・大切にしている場所(蛍等)を残すことができるとよい。 等

富士山に関するアイデア

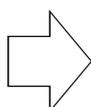
- ・駅から出たとき、(一) 黄瀬川までの道中で富士山が見えるとよい。 等

安全に関するアイデア

- ・駅前にロータリー、歩車を分離する歩道があるとよい。 等

賑わいに関するアイデア

- ・電車を待つ場所、集える場所があるとよい。
- ・空き家を活用できるとよい。 等



岩波駅周辺地区の**将来のまちづくりに向けたアイデア**が抽出され、**具体的に考えをかたちにしていくための1歩**となる取組となりました。

4-3-2 市民が求めるまちの将来像（イメージ）

第3回から第4回のワークショップでは、各グループで考えたまちづくりに求める要素を発表するとともに、参加者全員で市民が求めるまちの将来像をかたちにしました。

職住に関すること

- ・ オフィス、ワーケーション施設
- ・ 若者・子育て世帯が立ち寄る複合施設
- ・ 線路の東側地区の開発も大切

交通に関すること

- ・ 岩波駅の東西からアクセスできる駅前広場
- ・ 岩波駅からオープン・シティへのアクセス
(自動運転バス、動く空中歩道、(一)黄瀬川の遊歩道)
- ・ オープン・シティまでの歩道橋
- ・ 裾野 I.C 入口交差点と芦ノ湖方面をつなぐ道路
- ・ 駅前広場を広くする
- ・ 駅周辺道路は歩道を確保（歩行者の安全）

交流・賑わいに関すること

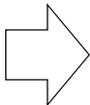
- ・ オープン・シティの住人と地元住民の交流センター
- ・ 空き地、空き家を活用する
- ・ 集える場所（いわなみキッチンのような）
- ・ 道の駅をつくる
- ・ 飲食できるような場所

地元の景観に関すること

- ・ 川沿いに散歩道をつくり景観を楽しめるようにする
- ・ 川を見ながら飲食できる施設
- ・ 吊り橋等で溪流を楽しむようにする
- ・ 蛸等地元が大切にしている場所を残し活かす
- ・ 富士山が見える場所を何か所かつくる
- ・ 自然を活かした公園

市民や企業の活躍に関すること

- ・ オープン・シティにない魅力を確立させることが必要
- ・ 活気あふれるまちづくり
- ・ 住んでいる人や将来住む人、県外から来る人のことを考えることが必要



岩波駅周辺地区のまちづくりに求める要素が抽出され、まちの将来像の具現化にむけた取組となりました。

◆自然を生かすエリア

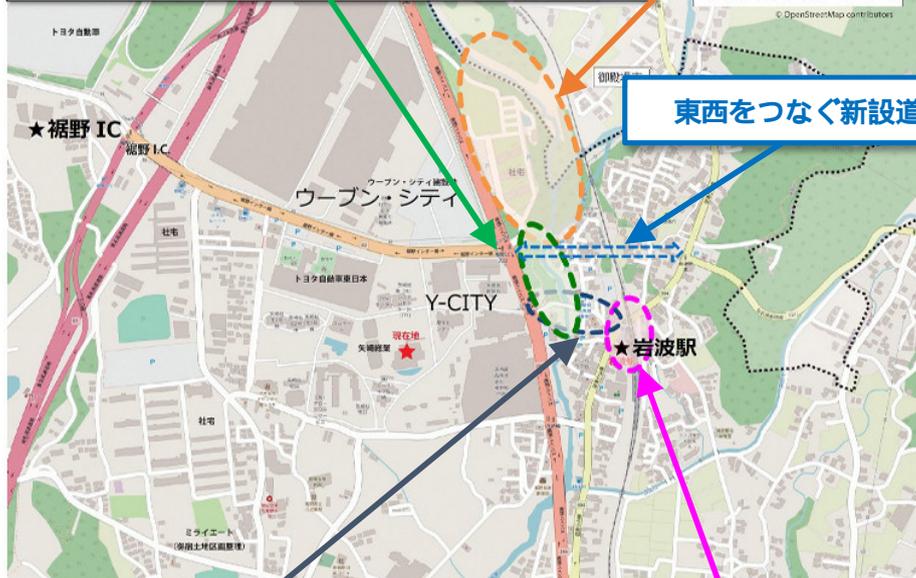
- ・自然公園
- ・(一) 黄瀬川沿いの遊歩道
- ・富士山ビュー
- ・(一) 黄瀬川の景観

国道 246 号沿道を活用した
交流と魅力を発信するエリア

- ・道の駅
- ・交流施設
- ・ウーブン・シティ・Y-CITY・岩波をつなぐ施設
- ・ウーブン・シティの紹介スペース

第 4 回ワークショップ各グループ発表のまとめ

岩波駅周辺地図



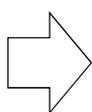
東西をつなぐ新設道路

◆安全な歩行者空間の整備と生活
サービス施設の充実を図るエリア

- ・歩道の確保
- ・歩道の高架化
- ・動く歩道
- ・ウーブン・シティまでの歩道橋
- ・商店街・商業施設
- ・飲食店
- ・複合施設

駅前交通結節点機能の
改善・強化を図るエリア

- ・駅前ロータリー
- ・駐車場、駐輪場
- ・駅東口改札
- ・自動運転車両の回遊
- ・シェアサイクル
- ・駅の移設



岩波駅周辺地区のまちの将来像(イメージ)をかたちにしたことで、どこのエリアでどのように自分が関わる(活躍する)ことができるか具体的に考える土台ができました。

4-3-3 まちづくりへの市民の具体的な関わり方

第5回、第6回のワークショップでは、まちの将来像（イメージ）をもとに、岩波駅周辺地区で「私だったらこんな関わり方ができるのではないか」をテーマに意見交換を行い、特にこのエリアで関わりたいことについて発表しました。

◆自然を生かすエリア

- ・キャンプのサポート
- ・マーケットマルシェの運営
- ・清掃ボランティア
- ・家族でこのエリアを利用する
- ・ガイド（通訳）等

国道 246 号沿道を活用した交流と魅力を発信するエリア

- ・イベントの発信
- ・裾野市の物産紹介
- ・深良の歴史を説明（語り部として参加）
- ・地元企業として技術展示
- ・宿泊施設をプロデュース
- ・音楽イベントでパフォーマーを呼ぶ
- ・職員（スタッフ）として働く 等

東西をつなぐ新設道路

- ・社内での魅力発信
- ・箱根に来る観光客を誘導するアイデアを提案
- ・ウーブン・シティと一緒にできるエリアをつくる 等

安全な歩行者空間の整備と生活サービス施設の充実を図るエリア

- ・ブースを出展する
- ・人の移動（動線）をデザイン
- ・ボランティアで積極的に参加する
- ・SNS での情報発信 等

駅前交通結節点機能の改善・強化を図るエリア

- ・社員の通勤ルートを考える
- ・ガイドとして手伝い
- ・コンテンツ作り 等

これまでのワークショップで出されたアイデアの種に対して、これからのまちづくりの中で自分たちが具体的にどのような事に関われるのが共有しました。

参加者のアイデアやまちづくりに対する熱意を1つでも多く実現するため、岩波駅周辺地区で市民・企業がつながり、活躍できる場所や仕組みづくりに取組んでいきます。

